

【R5薬用作物産地支援 栽培技術研修】

研修会	開催日	集合場所	研修会場	現地研修場所
北海道	8月29日(火)~30日(水)	名寄駅前 (JR北海道)	駅前交流プラザ よろーな (名寄市)	名寄市薬用作物研究会 薬用植物資源研究センター
秋田	9月28日(木)~29日(金)	東能代駅前 (JR東日本)	峰浜地区文化交流センター峰 栄館 (秋田県八峰町)	秋田県八峰町
群馬	11月 8日(水)~ 9日(木)	上毛高原駅前 (JR東日本)	高崎白銀ビル貸会議室 (群馬県高崎市)	利根沼田農業協同組合
長野	12月 5日(火)~ 6日(水)	松本駅前 (JR東日本)	松本商工会議所 (長野県松本市)	安曇野みらい農園
高知	11月28日(火)~29日(水)	佐川駅前 (JR四国)	高知県立県民文化ホール (高知県高知市)	農事組合法人ヒューマンライ フ土佐
熊本	12月19日(火)~20日(水)	人吉駅前 (JR九州)	人吉市カルチャーパレス (熊本県人吉市)	あさぎり薬草合同会社

※ 集合場所～現地研修～研修会場はバスでの移動を基本とします

※ 以下の各研修プログラムは内容を一部変更することがあります。

R5 薬用作物産地支援 栽培技術研修 北海道会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者

研修目的： 薬用作物（特に国内生産重点品目）の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

受講定員： 15名

研修実施場所： 駅前交流プラザ よろーな 会議室3（北海道名寄市東1条南7丁目1-10）

実施時期： 8月29日(火)～30日(水)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
8月29日 (火)	13:10-13:30 (20分)	13:00現地集合 場所：名寄駅前（JR北海道）バス移動	研修の概要説明	事務局	
	13:30-15:00 (90分)	[現地研修]	名寄市の「カノソウ」栽培圃場の現地研修を通じて、薬用作物の特徴、品質評価について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。	六郎田 直人 ほか生産者	名寄市薬用作物研究会
	15:00-15:30 (30分)	移動(バス利用)		事務局	
	15:30-16:30 (60分)	[現地研修] 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センター北海道研究部	薬用作物の特徴、種子・種苗の供給、品質評価、研究開発の状況等について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。	林 茂樹	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究センター北海道研究部
	16:30-16:45 (15分)	移動(バス利用) →名寄駅前	初日解散	事務局	
8月30日 (水)	9:00-9:50 (50分)	[講義] 薬用作物の国内生産拡大の取り組み	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	兀下 敏幸	日本漢方生薬製剤協会生薬国内生産検討班
	10:00-11:10 (70分)	[講義] 薬用作物の栽培技術について（仮題）	地域の生産者からの要望の高い栽培技術について解説する（シャクヤク、トウキほか）。	林 茂樹	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究センター北海道研究部 研究リーダー
	11:20-12:00 (40分)	[講義] 名寄市における薬用作物生産の取り組み（仮題）	名寄市におけるカノソウの生産振興に関する地域・生産者の取り組みを紹介する。	六郎田 直人	名寄市役所経済部農務課 農業振興係 主査
	12:00-13:00	昼食			
	13:00-14:30 (90分)	[情報交換会] 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	事前提出資料の報告をもとに、各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	

R5薬用作物産地支援 栽培技術研修 秋田会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会
 受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者
 研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上
 受講定員： 15名
 研修実施場所： 峰浜地区文化交流センター峰栄館（秋田県八峰町峰浜田中野田沢20-1）大ホール
 実施時期： 9月28日(木)～29日(金)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
9月28日 (木)	13:10-13:40 (30分)	13:00現地集合 場所：東能代駅前 (JR東日本) バス移動	研修の概要説明	事務局	
	13:40-15:40 (100分)	〔現地研修〕 薬用作物の栽培技術等について	八峰町（東京生薬協会との薬用作物栽培に関する連携協定締結）の圃場における現地研修で、収穫間近の状況を見学し、薬用作物の特徴、品質評価について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。		
	15:40-15:45 (5分)	移動 →研修会場		事務局	
	16:00-16:50 (50分)	〔講義〕 薬用作物の国内生産拡大の取り組み	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	兀下 敏幸	日本漢方生薬製剤協会生薬国内生産検討班
	17:10-17:40 (30分)	移動（利用希望者） 研修会場→能代駅			
9月29日 (金)	8:30-9:00 (30分)	移動（利用希望者） 能代駅→研修会場			
	9:20-10:40 (80分)	〔講義〕 薬用作物の栽培技術について（仮題）	八峰町が連携して取り組んでいるキキョウの栽培技術および薬産協が設定した重点品目について紹介する	飯田 修	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センター 客員研究員 東京生薬協会栽培指導員
	10:50-11:30 (40分)	〔講義〕 八峰町における薬用作物生産の取り組みについて（仮題）	八峰町における薬用作物生産に関する地域・生産者の取り組みについて、産地作りのきっかけから現状と課題、今後の展望を紹介する。	門脇 朝哉	八峰町農林振興課副課長
	11:40-13:15	昼休み (移動を含む)	11:40 峰栄館 出発（町営バス） 11:55 道の駅みねはま 到着 (参加者ランチタイム) 13:00 道の駅みねはま 出発 13:15 峰栄館 到着		
	13:20-14:50 (90分)	〔情報交換会〕 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:50-15:10	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	
	15:20-15:50 (30分)	移動（利用希望者） 研修会場→東能代駅			

※初日集合場所と2日目研修終了後の移動先は「東能代駅」です。
 初日終了時と2日目朝の（希望者）送迎は「能代駅」です（駅周辺のホテルの有無による）。

※八峰町内の宿泊については下記にお問い合わせください
 「白神温泉ホテル0185-77-2233」（会場から車で10分ほど）
 宿泊者のための送迎バスを出してもらえるかは、ご確認ください。

薬用作物産地支援 栽培技術研修 群馬会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会
 受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者
 研修目的： 薬用作物（特に国内生産重点品目）の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上
 受講定員： 15名
 研修実施場所： 高崎白銀ビル貸会議室（群馬県高崎市白銀町9） 第一会議室
 実施時期： 11月8日(水)～9日（木）

	時間	研修科目	内容	講師	所属
11月8日 (水)	13:30-14:00 (30分)	13:20現地集合 場所：上毛高原駅前 (JR東日本)バス移動	研修の概要説明	事務局	
	14:00-16:00 (120分)	〔講義・現地研修〕 薬用作物の栽培技術等について	群馬県「利根沼田農業協同組合」のトウキ圃場における現地研修を通じて、薬用作物の特徴、栽培上の注意点、収穫、品質評価等について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。	南 輝雄 坂西 和世	利根沼田農業協同組合 薬草部会部長 営農企画課
	16:00-17:00 (50分)	移動(バス利用) →高崎市内研修会場付近	初日解散	事務局	
11月9日 (木)	9:00-9:50 (50分)	〔講義〕 薬用作物の国内生産拡大の取り組み	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	小柳 裕和	日本漢方生薬製剤協会生薬国内生産検討班長
	10:00-11:20 (80分)	〔講義〕 薬用作物の栽培技術にあたって(仮題)	地域の生産者、実需者から要望の高い栽培技術について解説する(シャクヤク、トウキ等)。	柴田 敏郎	前・国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センター客員研究員
	11:30-12:10 (40分)	〔講義〕 富山県における薬用作物の栽培支援体制について(仮題)	富山県における薬用作物(シャクヤク、トウキ等)の栽培振興へ向けた取り組みについて紹介する。	田村 隆幸	富山県薬事総合研究開発センター 薬用植物指導センター主任研究員
	12:10-13:10	昼 食			
	13:10-14:40 (90分)	〔情報交換会〕 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	事前提出資料の報告をもとに、各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	

※ 内容は一部変更の可能性があります。

薬用作物産地支援 栽培技術研修 長野会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会
 受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者
 研修目的： 薬用作物（特に国内生産重点品目）の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上
 受講定員： 15名
 研修実施場所： 松本商工会議所（長野県松本市中央1丁目23-1） 601会議室
 実施時期： 12月5日(火)～6日(水)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
12月5日 (火)	13:05- 13:30 (25分)	13:00 現地集合 場所：松本駅前 (JR東日本) バス移動	研修の概要説明	事務局	
	13:30- 15:30 (120分)	[現地研修] 薬用作物の栽培技術等につ いて	薬用作物産地支援協議会が、圃場での種 苗増殖における生育状況・作業効率・増殖 効率の調査のために委託している「安曇野み らい農園」の圃場（カノコソウ、シャクヤク）を 見学し、種苗の増殖特性等について知識・ 技術の理解を深める。	奥原 聖人 兀下 敏幸	安曇野みらい農園 薬用作物産地支援協議会
	15:30- 16:00 (30分)	移動(バス利用) →松本市内 研修会場付近	初日解散	事務局	
12月6日 (水)	9:30- 10:20 (50分)	[講義] 薬用作物の国内生産拡大に 向けた取り組み	薬用作物の国内生産拡大に向けた薬用作 物産地支援協議会の取り組み内容について 紹介する。	小柳 裕和	日本漢方生薬製剤協会生薬 国内生産検討班長
	10:25- 11:10 (45分)	[講義] カノコソウの来歴及び栽培の実 態	北海道におけるカノコソウ栽培の経緯、これま での栽培方法の改良点、加工調整の改良 点について紹介する。	古木 益夫	地域特産物マイスター（薬用 作物）
	11:15- 12:00 (45分)	[講義] シャクヤク栽培の実際	富山県におけるシャクヤクの栽培法・調製加 工法と生産振興に向けた取り組みについて紹 介する。	田村 隆幸	富山県薬事総合研究開発セン ター 薬用植物指導センター 主 任研究員
	12:00- 13:00	昼 食			
	13:00- 14:30 (90分)	[情報交換会] 各地域の薬用作物産地形成 における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題 について情報交換を行うとともに、今後の産 地育成支援の進め方を討議する。	講師同席 (助言者) 酒井 英二	岐阜薬科大学 薬草園研究室 教授
	14:40- 15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査 を実施	事務局	

※「薬用作物の産地化に向けた地域説明会」との合同開催

※ 内容は一部変更の可能性があります。

薬用作物産地支援 栽培技術研修 高知会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者

研修目的： 薬用作物（特に国内生産重点品目）の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

研修実施場所： 高知県立県民文化ホール（高知県高知市本町4-3-30）第6多目的室

実施時期： 11月28日(火)～29日(水)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
11月28日(火)	13:25-13:50 (25分)	13:20 現地集合 場所：佐川駅前（土讃線） 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	14:00-16:00 (120分)	〔講義・現地研修〕 薬用作物の栽培技術等について	「ヒューマンライフ土佐」における現地研修で、収穫時期の状況を見学し、薬用作物の特徴、品質評価について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。	高橋 昌彦	農事組合法人ヒューマンライフ土佐 代表理事
	16:00-17:15 (75分)	移動(バス利用) →高知市内 研修会場付近	初日解散	事務局	
11月29日(水)	9:00-9:50 (50分)	〔講義〕 薬用作物の実需者コースと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	小柳 裕和	日本漢方生薬製剤協会生薬国内生産検討班長
	10:00-11:10 (70分)	〔講義〕 薬用作物の栽培にあたって(仮題)	ミシマサイコの栽培技術および薬産協が設定した重点品目について紹介する。	飯田 修	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センター 客員研究員
	11:20-12:00 (40分)	〔講義〕 三豊市における薬用作物栽培普及に向けた4年間の取り組み	地域おこし協力隊からスタートした、薬用作物栽培の導入・普及・拡大（サイコ、トウキ、キジツ）の取り組みについて、「継続」をキーワードにその活動を紹介する。	高島正彦	三豊市農林水産課 地域プロジェクトマネージャー
	12:10-13:10	昼食			
	13:10-14:40 (90分)	〔情報交換会〕 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	4:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	

※ 内容は一部変更の可能性がります。

薬用作物産地支援 栽培技術研修 熊本会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者

研修目的： 薬用作物（特に国内生産重点品目）の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

研修実施場所： 人吉市カルチャーパレス（熊本県人吉市下城本町1578番地1） 第10会議室

実施時期： 12月19日(火)～20日(水)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
12月19日(火)	12:30-13:00 (30分)	12:20現地集合 場所：人吉駅前 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:00-15:00 (120分)	〔講義・現地研修〕 薬用作物の栽培技術等について	「あさぎり薬草合同会社」における現地研修で、収穫時期の状況を見学し、薬用作物の特徴、品質評価について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。	那須 健助	あさぎり薬草合同会社 代表社員
	15:00-15:30 (30分)	移動(バス利用) →研修会場		事務局	
	15:50-16:40 (50分)	〔講義〕 薬用作物の国内生産拡大の取り組み	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	兀下 敏幸	日本漢方生薬製剤協会生薬国内生産検討班
12月20日(水)	9:30-11:00 (90分)	〔講義〕 薬用作物の産地化に必要な技術と生産者の向き合い方	薬用作物の産地化方法について、成功・失敗事例を踏まえて解説する。	渥美 聡孝	九州保健福祉大学 薬学部 薬学科 准教授
	11:10-11:50 (40分)	〔講義〕 由布市における薬用作物産地育成の取り組み	由布市における薬用作物（トウキ、シャクヤク等）の産地化に向けた取り組みについて紹介する。	高田 龍也	由布市わくわく農業会議
	11:50-13:00	昼休み			
	13:00-14:30 (90分)	〔情報交換会〕 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:30-14:50	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	

※ 内容は一部変更の可能性があります。